

ねりまの食育応援店事業について

1 目的

練馬区でいつまでも健康で暮らすために、

- ・練馬ならではの食材を使っているお店
- ・自らの身体に合わせて健康的な食事を選べるお店
- ・区民が地域に残したいと思うお店

にスポットを当て、区民が住み慣れた地域でいつまでも健康で暮らせる食環境整備を進め、食を通じた健康づくりを推進していく。



2 ねりまの食育応援店登録店（平成 29 年度より事業開始）

令和 3 年 5 月 31 日現在 83 店舗登録【資料 2-4】

3 今までの活動

平成 29 年 5 月	ねりまの食育応援店事業要綱制定 登録店の募集を開始 区 HP に掲載
11 月	練馬区健康管理アプリのマップに応援店を掲載
平成 30 年 1 月	食育推進講演会で食育応援店の取り組みを応援店店主より発表
3 月	平成 29 年度登録店舗数 48 店舗

平成 30 年 6 月	本庁舎 2 階西通路で、応援店周知のパネル展示
11 月	練馬区健康管理アプリ、都市農業サミットとのコラボキャンペーン実施（21 店舗協力 引き換え 23~27 名）
12 月	ねりまの食育応援店情報誌発行（食育推進講演会にて情報誌配付）
平成 31 年 3 月	平成 30 年度登録店舗数 66 店舗

平成 31 年 4 月	ねりまの食育応援店事業実施要綱 登録証 2 次利用を付則
令和元年 6 月	ねりまの食育応援店情報誌（第二版）発行
7 月	ねりま食育サミット開催 ねりまの食育応援店店主による食育講座を実施
3 月	令和元年度登録店舗数 70 店舗

令和 2 年 7 月	ねりまの食育応援店情報誌（第三版）発行
10 月	健康管理アプリ（ねりまちてくてくサプリ）を利用した健康インセンティブ事業「近所で見つけるねりまの食育応援店！てくてくサプリで楽しく歩こう！キャンペーン」実施

11月	ねりまほっとラインでの特集（練馬の食育）の中で、ねりまの食育応援店を紹介
12月	ねりまの食育応援店作成協力による、食育実践ハンドブック「野菜とれとれ！1日5とれとれ！（冬野菜レシピ集）」発行
令和3年3月	令和2年度登録店舗数 77 店舗

4 第7期部会活動報告

① ねりまの食育応援店事業の周知方法について

情報誌についてはアナログ世代には好評のため、継続して作成することが周知として有効である。若い世代はSNS等を利用しているため、区ホームページやアプリを充実させていく。

② 登録店舗数の拡大について

現在登録している食育応援店から店舗を紹介してもらい、店舗数を増やしていく。

③ 食育応援店イベント（販売会）の検討

事業周知としては有効である。実施時期は店舗が忙しい時期を避け、5・6・9月頃で計画してはどうか。天候に左右されない場所での実施が望ましい。イベントを通じて、食育応援店同士や、農家、学校、JAを繋げられるとさらによいのではないか。

④ 食育実践ハンドブック「野菜とれとれ1日5とれとれ！（冬野菜レシピ集）」作成

ねりまの食育応援店の周知および野菜摂取量の向上を目指して作成した。ねりまの食育応援店の協力により、冬野菜を使用したレシピを提供してもらい冊子を作成した。また、より多くの方へ周知するために、応援店での配布はもちろん、図書館でも配布した。

5 第8期での検討案

① 食育イベント等の企画、実施

練馬区健康づくりサポートプラン「6 地域と取り組むねりまの食育 (2)練馬ならではの食生活を推進」の主な取組として、ねりまの食育応援店の店主によるプロならではの知識や技を伝える食育イベント等の企画を挙げている。実施可能な時期、方法、周知等について、引き続き検討が必要。

② 食育情報の発信

第8期でも、ねりまの食育応援店の協力を経て、食育実践ハンドブック「野菜とれとれ！1日5とれとれ！（季節版）」を作成し、冊子を活用した食育の発信を実施していく。また、冊子を活用した食育の発信に加え、今後も幅広い世代に向けて、ホームページやアプリ等による食育情報の発信についても検討が必要。